

## 東日本外壁仕上業協同組合が 登録外壁仕上基幹技能者認定講習と試験を実施

東日本の合格者は10名。全国3地区で27名が合格

東日本外壁仕上業協同組合(池田稚夫理事長)は11月28日(土)、29日(日)の2日間にわたり東京・新宿区の日建学院・新宿校で登録外壁仕上基幹技能者認定講習会を開催した。内容は講習および試験の2種類で10名が合格証を手にした。

講習の第1日目は、8時30分よりスタート。冒頭、池田稚夫東日本外壁仕上業協同組合理事長が挨拶した。席上、同理事長は「基幹技能者資格は建築界で益々その重要度を増しています。2日間しっかり勉強され、一人でも多くの受講者に合格していただきたい」と期待を寄せた。

このあと、午前8時30分より小野澤昭氏(専務理事)によるガイダンスがあり、9時より3時間にわたり大平延行講師(富士教育訓練センター)が講義を行った。同講義では『一般知識』として「基幹技能者のあり方」と「話し方・OJT」の2科目を、さらに昼食を挟んで午後1時より2時まで「関連法規について」講義を行った。このあと、小野澤講師(専務理事)が2時から5時30分まで3時間にわたって『現場管理』としての「施工管理」、「品質管理」、「資材管理」、「事務管理」の4科目を集中講義した。

第2日目の29日は、前日に引き続き小野澤講師が8時30分より10時30分まで『現場管理』としての「原価管理」、「安全管理」の2科目について講義。さらに野口陽一講師(副理事長)が10時30分から11時30分ま

で『専門技術』としての「調査・診断」、「下地処理」の2科目について講義した。野口講師は、昼食後の12時30分から3時30分まで「仕上材料」、「仕上工法」、「現場管理」としての「工程管理」についても講義を行った。

このあと、15分の休憩後の3時45分から5時45分までの2時間にわたり学科試験が行われた。この結果、10名が晴れて合格証を手にした。

同講習は大阪地区でも11月7日、8日(近畿外壁仕上業協同組合/大阪・日建学院梅田校)、愛媛地区でも11月14日、15日(愛媛県仕上工事業協同組合/松山市・ポリテクセンター愛媛)に実施され、大阪地区で11名、愛媛地区で6名がそれぞれ合格した。

登録基幹技能者制度は、建設産業の労働生産性の向上、品質・性能・安全の確保のために建設32業種41団体が整備されている制度。基幹技能者は、専門工事業種ごとの高度な専門知識・技能を有するだけではなく、建設一般に関する幅広い知識を有する人材。登録外壁仕上基幹技能者は、塗装・吹付分野での熟練技能者、上級職長に位置付けられる。登録外壁仕上基幹技能者になるためには、塗装・吹付分野での10年以上の実務経験と職長経験が必須となる。そのうえで、外壁仕上一級技能者合格者または国土交通大臣優秀施行顕彰者(建設マスター)であるという条件が必要となるため、今後、多くの受



小野澤昭講師の講義風景(円内:挨拶する池田稚夫・東日本外壁仕上業協同組合理事長)



大平延行講師



野口陽一講師

験者がチャレンジしてくるものと思われる。

小野澤専務理事によれば、「この資格は、吹付塗装の分野における最上位資格であり、登録基幹技能者を目指すことは、技能者が段階的にスキルアップしていくための大きな目標となるのではないかと。また、国土交通省も奨励している資格制度であり、建設現場での一定数の配置を義務づけるなど今後益々、重用される資格で今後は合格のハードルも上っていくのが予想される。合格率の高い今が受験のチャンス」と話している。国土交通省は、登録基幹技能者に対する経営事項審査(経審)の加点について、Z(技術力)の評価項目の中で、一人当たり一律3点の加点が実施されている。国土交通大臣に登録をした機関が実施する登録基幹技

能者講習を修了し試験に合格した者は、新たに経営事項審査で加点されることとなる。さらに、大手ゼネコンの協力を得ることを通じて、基幹技能者の賃金を底上げしていけるような制度も模索されており、基幹技能者への期待は拡大しつつあると言える。日本外壁仕上協同組合連合会は、国土交通省令第3号建設業施工規則の一部を改正する省令(平成21年4月28日付)に基づき、基幹技能者認定講習会を運営実施する認定団体として認定登録されており、今回開催された講習は、建設業法施行規

則第18条の3の6の規定に基づき「登録建設塗装基幹技能者」の認定を行う講習会だ。基幹技能者の資格を取得するためには、この講習を受け、試験に合格する必要がある。会場で試験に立ち会った池田理事長も「吹付・塗装・防水分野の仕事に携わっておられる方は、この登録外壁仕上基幹技能者試験の受験をお薦め致します。登録基幹技能者の具体的役割は、建設工事現場の要となる上級職長であり、今後、益々重要な役割を期待されてくる資格です」と組合員の受験と資格取得に期待を寄せる。

### 訃報

## 山室賢太郎・本会初代会長逝く

**山室賢太郎氏**(写真・元日本建設吹付協会会長[現日本外壁仕上業連合会の前身])



11月28日に死去。91才。12月9日前後に生前親しかった人たちに宛てて同氏が生前自筆でしたためた以下文面による「挨拶葉書」が届いた。差出人は佐登子夫人。

『私儀 去る11月28日 楽しかった人生を終わりました。生前皆様方に格別のご交友を賜り心から感謝申し上げます。葬儀は身内だけですます様に頼みましたので、ご無礼をお許し下さい。やりたい事、言いたい事成し遂げ幸福な一生で思い残す事はありません。黄泉で明治の先輩と語ります。どうか皆様お体大切に天寿を全うされます様祈念申し上げます』亡 山室賢太郎

山室氏は、1924(大正13年)に東京で出生。中央工学校土木課在学中、入営のため中退。その後、野村組(現・

小田急建設(株))に入社。1952年(昭和27年)二級建築士免許取得。1955年(昭和30年)に山一装業(株)を創業。1961年(昭和36年)建設吹付専門業者初の任意団体「東京吹付業協同組合」設立に参画。故岩崎行男氏、小俣一夫氏らとともに1965年(昭和40年)、材工合同の組織日本防水リシン工業会(現・日本建築仕上材工業会の前身)設立に関わり副会長に就任。1967年(昭和42年)、野口勝次氏(日幸化学工業(株)会長)、故・津崎武弘氏(和幸総合建装(株))らと共に日本建設吹付協会(日本建設吹付業連合会、現・日本外壁仕上業連合会の前身)の設立に参画。設立後は会長に就任。その後、相談役を務めた。1978年(昭和53年)、吹付専門団体として日本建設吹付業連合会の法人化、職業訓練職種の独立運動を全国的に展開し、その先頭に立つ。本連合会の伝説的存在で、著書に『化かし化かされて35年』(1992年5月(株)工文社刊/非売品)がある。

### ■ 短信

近畿外壁仕上業協同組合(岩田紳一理事長)は恒例の平成28年「新年

の集い」を平成28年1月21日(木)午後5時より大阪市北区の「ウエスティンホテル大阪」で開催する。

### ■ 40年の歴史をもつ全国組織です ■

日本外壁仕上業協同組合連合会(本部/東京都/会長/野口勝一:略称NGS)は、昭和42年に日本建築仕上材工業会の前身である日本防水リシン工業会の施工部門が独立して設立された建築吹付工事の専門家組織です。今日、外壁仕上協同組合連合会所属の会員会社は、吹付・塗装を業務の核としながらも、屋根・防水・内装工事など幅広い事業展開をしており、時代が求める総合リフォームのプロ集団へと変貌を遂げつつあります。国土交通省の行政指導のもと以下の全国5地区に事務所を置く協同組合の連合体です。活動状況など詳しくは本部事務局または各組合事務局にお訊下さい。  
 □東日本外壁仕上業協同組合(理事長:池田 雅夫)  
 □近畿外壁仕上業協同組合(理事長:岩田 紳一)  
 □愛媛県仕上工事業協同組合(理事長:義野 寛幸)  
 □福岡外壁仕上業協同組合(理事長:川口 大介)

### ■ 登録外壁仕上基幹技能者を育成 ■

登録基幹技能者制度は、建設産業の労働生産性の向上、品質・性能・安全の確保のために建設27業種35団体が整備された制度です。基幹技能者は、専門工事業種ごとの高度な専門知識・技能を有するだけでなく、建設一般に関する幅広い知識を有する人材です。それゆえに、現場の実態に応じた確かな施工方法を技術者に提案することができ、関連業種との調整能力も発揮する人材です。

また、効率的な工事推進のための優れた現場管理能力・原価管理能力を有し、建設産業の労働生産性を高めることに資することのできる人材です。登録外壁仕上基幹技能者は、塗装・吹付分野での熟練技能者、上級職長に位置付けられます。建設現場で働く技能者をリーダーシップをもって東へ、指示・指導しながら、優れた塗装・吹付工事を達成できるよう努める人材です。登録外壁仕上基幹技能者になるためには、塗装・吹付分野での10年以上の実務経験と3年以上の職長経験が必須となります。そのうえで、外壁仕上一般技能者合格者または国土交通大臣優秀施工顕彰者(建設マスター)であるという条件が必要となります。

当該資格は、吹付塗装の分野における最上位資格であります。登録基幹技能者を目指すことは、技能者が段階的にスキルアップしていくための大きな目標となります。国土交通省は、登録基幹技能者に対する経営事項審査(経審)の加点について、乙(技術力)の評価項目の中で、一人当たり一律3点を加点することを決定しています。国土交通大臣に修了した機関が実施する登録基幹技能者講習を修了し試験に合格した者は、新たに経営事項審査で加点されることとなります。さらに、大手ゼネコンの協力を得ることを通じて、基幹技能者の賃金を底上げしていけるような制度も模索されており、基幹技能者への期待は拡大しつつあります。日本外壁仕上業協同組合連合会は、国土交通省令第3号建設業法施行規則の一部を改正する省令(平成21年4月28日付)に基づき、基幹技能者認定講習会を運営実施する認定団体として登録されました。講習は、建設業法施行規則第18条の3の6の規定に基づき「登録建設塗装基幹技能者」の認定を行う講習会であり、当該資格を取得するためには、この講習を受け、試験に合格する必要があります。吹付・塗装分野に携わっておられる方は、積極的に登録外壁仕上基幹技能者試験の受験をお薦め致します。登録基幹技能者の具体的役割は、建設工事現場の要となる、上級職長等として、以下の役割を通じて効率的で生産性の高い作業を実施する者を指します。

1. 現場の状況に応じた施工方法、工程等の提案、調整等、2. 現場作業を効率的に行うための技能者の適切な役割分担等作業手順の決定、3. 他の技能者の施工に係わる指示、指導、4. 前工程・後工程に配慮した他の職長等との連絡調整。登録基幹技能者に必要な能力は、1. 吹付塗装の技術に熟達していること、2. 吹付塗装の技術に関連する知識、技術の進展等に対応していく力、3. 現場をまとめ、体系立った効率的な作業を実施するための管理能力、4. 塗装・吹付に携わる方。

### ■ 受験資格・手続き・経営審査 ■

平成14年~20年に外壁仕上基幹技能者に合格された旧基幹技能者の方は、制度が登録外壁仕上基幹技能者になるにあたり、特例講習を受講する必要があります。特例講習の実施は、21年10月から24年3月まで完了となりました。